

News Letter

第20回全国大会および第10回日本・モンゴル国際シンポジウム開催予告号

2010年5月

経営行動研究学会会報

第68号

第20回経営行動研究学会全国大会 第10回日本・モンゴル国際シンポジウム大会

実行委員長（早稲田大学）

厚東 偉介

第20回全国大会は、「新しい経営行動の方向と課題」という統一テーマのもと、早稲田大学で、8月3日（火）から5日（木）にかけて開催いたします。

2008年秋、アメリカ発の金融危機から、「アメリカ型の資本主義システム」が、問題になり、新たなタイプの経済体制が、とりわけ、アジアで模索され始めている。日本や中国でも、新しいタイプの経済・社会体制が模索されている。2009年8月には、経営行動研究学会と北京・清華大学の共催の「第22回日中企業管理シンポジウム大会」では「東方（東洋）管理思想における企業近代化の実践」がテーマになり、きわめて熱心に議論された。今後、日本を含め、いかなる経済社会システムへ向けて、どのような経営行動のあり方を取るべきなのか。このような問題意識で「新しい経営行動の方向と課題」を模索・検討する。

第10回 日本・モンゴル国際シンポジウムは、「環境・政策・経営行動」の統一テーマで、8月3日（火）4日（水）の両日、第20回全国大会の開催期間中に実施いたします。

2009年8月、モンゴル・ウランバートルで、第9回日本・モンゴル国際シンポジウム大会が開催された。モンゴルは、いっそうの経済開発を強く追い求め、またウランバートル市の再開発は、アメリカのような都市開発がモデルになっていた。モンゴルで地下資源・鉱山開発を急いで進めると、モンゴルの環境が荒らされる。ウランバートルでは、スモッグに見舞われ、呼吸器系の病気の罹患者も増加している。鉱山開発では、「足尾鉱山」からの鉱毒の河川汚染が解決されるまでに、その道のりの長くかかったことが、日本人であれば誰もが知っている。モンゴルでは、各地で牧畜がなされている。川が汚染されてしまったら、大打撃であろう。地球環境問題を強く意識した開発がなされなければならない。ウランバートル市の再開発では、水についても「下水の浄化処理」は意識されていなかった。都市交通では路面電車などへの関心が少しもなかった。モンゴルや日本だけでなく、今では地球規模で経済政策だけでなく、社会政策や環境政策などを含めた、全体としての政策が議論され模索されると同時に、新たな方向に経営行動のあり方が議論されるべき時にある。

素晴らしい報告者に恵まれ、両大会ともに大きな成果を収めると期待できます。多数の方々の

参加が得られれば、さらに魅力的な議論が展開されます。積極的な参加をお待ちします。

第20回全国大会および第10回日本・モンゴル国際シンポジウムプログラム

2010年8月3日（火）・4日（水）・5日（木）早稲田大学 11号館

全国大会統一論題：「新しい経営行動の方向と課題」

シンポジウム統一テーマ：「環境・政策・経営行動」

2008年8月3日（火）8：30受付開始，11号館 9階 907・908・913教室

❖ 第20回経営行動研究学会全国大会報告 ❖

自由論題 I 9：00～9：45（報告30分，コメント・質疑15分）

11号館	A会場（9階907教室）	B会場（9階908教室）	C会場（9階913教室）
テーマ	「中国上場企業における株式所有構造の変遷と現状－2005年全流通改革以降の変化とを中心に－」	「企業成長における多角化と転地－東レ株式会社の事例研究－」	「アパレル産業におけるリスク適応とサプライチェーン構築－ワールドの事例研究－」
報告者	廉 玉丹（桜美林大学大学院）	清水 洋一（東京都教育委員会・喜多見小学校）	李 雪（早稲田大学）
コメント	金 在淑（日本大学）	山口善昭（東京富士大学）	大平義隆（北海学園大学）
司会者	飛田幸宏（白鷗大学）	坂野友昭（早稲田大学）	宮下幸一（桜美林大学）

自由論題 II 9：50～10：35

テーマ	「中国国有独資企業の企業統治に関する考察－董事会、監事会の選出と構造を中心に－」	「意思決定のフラット化とビジネス情報の共有－世界のフラット化との関連から－」	「中国における産業集積と日系企業の事業戦略－上海と大連の事例を中心に－」
報告者	董 光哲（江戸川大学）	高橋 律（中央学院大学）	井上善海（広島大学）
コメント	丹野 勲（神奈川大学）	上野 哲郎（和光大学）	高橋公夫（関東学院大学）
司会者	洪 聖協（日本生産性本部）	金子勝一（山梨学院大学）	今口忠政（慶応義塾大学）

自由論題 III 10：40～11：25

テーマ	「コーポレート・ガバナンス政策論－原則の新たな役割と使命に焦点をあてて－」	「管理職従業員の労働時間管理と健康管理」	「長寿企業の経営永続性の条件」
-----	---------------------------------------	----------------------	-----------------

報告者	小島大徳 (神奈川大学)	石毛昭範 (拓殖大学)	佐々木一彰 (日本大学)
コメンテータ	佐久間信夫 (創価大学)	谷内篤博 (文京学院大学)	関岡保二 (中央学院大学)
司会者	金山 権 (桜美林大学)	関口和代 (東京経済大学)	新川 本 (長崎県立大学)

ランチタイム 11:25~12:15 (11号館 4階 第3・第4会議室)

＊ 経営行動研究学会・モンゴル経済ビジネス連合共催 ＊
第10回 日本・モンゴル国際シンポジウム

受付開始 11:00~ 11号館 4階
 集合写真撮影 12:20~12:30 11号館 1階 エントランス
 統一テーマ:「環境・政策・経営行動」 11号館 4階 大会議室
 開会式 12:35~13:10

第Ⅰ報告 13:15~14:05 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ:「世界の文明とモンゴル人」

報告者 : B. Enkhtuvshin (モンゴル科学アカデミー会長, 教授)

第Ⅱ報告 14:10~15:00

テーマ:「交通政策と地球環境問題」

報告者 : 秋武 孝春 (神戸国際大学講師)

司会者 : 金子 逸郎 (明治大学教授)

コーヒープレイク (15:00~15:10)

第Ⅲ報告 15:10~16:00

テーマ:「エルデネット市におけるエコロジカル経営の若干の問題」

報告者 : A. Dauletbai (オルホン県エルデネット市人民代表会議の議長)

第Ⅳ報告 16:05~16:55

テーマ:「日本企業の今日的課題」

報告者 : 小松 章 (一橋大学大学院教授)

司会者 : 櫻井 克彦 (東海学園大学教授)

第Ⅴ報告 17:00~17:50

テーマ:「公共サービスのための人的資源に関する研究」

報告者 : B. Davaasuren (モンゴル国立科学技術大学副学長、教授、博士)

第VI報告 17:55~18:45

テーマ:「ウランバートル市の製造工場における環境負荷の削減方法」

報告者: B. Davaasuren (モンゴル国立科学技術大学副学長、教授、博士)

8月4日(水) 8:30受付開始 11号館 4階 大会議室

第VII報告 9:00~9:50 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ:「アイスプラントを用いた塩集積土壌改良の可能性」

報告者: 野瀬 昭博 (佐賀大学農学部教授)

司会者: 厚東 偉介 (早稲田大学商学大学院教授)

第VIII報告 9:55~10:45

テーマ「日本・モンゴル間の貿易と経済関係」

報告者: E. Gurgjav (モンゴル国立大学副学長, 教授)

コーヒープレイク(10:45~10:55)

第IX報告 10:55~11:45

テーマ「日本産業の現状と環境対策」

報告者: 櫻井 清 (和光大学名誉教授)

司会者: 岩井 清治 (桜美林大学教授)

ランチタイム 11:45~12:30 (11号館 4階 第3・第4会議室)

第X報告 12:30~13:20 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ「国際化時代におけるモンゴル国と東アジア諸国との関係」

報告者: L. Haisandai (モンゴル国科学アカデミー国際研究所所長)

第XI報告 13:25~14:15

テーマ「グローバル社会における疫学的課題と対策」

報告者: 酒井 健夫 (日本大学総長・生物資源科学部教授)

司会者: 坂田 壽衛 (日本大学グローバルビジネス研究科教授)

閉会式 14:15~14:45

第20回経営行動研究学会全国大会

会員総会 15:10~15:45 (11号館 4階 大会議室)

統一論題報告 (11号館 4階 大会議室)

統一論題：「新しい経営行動の方向と課題」

第Ⅰ報告 15:50~16:40 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ 「会計基準と企業の会計行動—環境関連負債に関連して—」

報告者：佐藤 信彦 (明治大学大学院会計専門職研究科長, 教授)

司会者：長谷川 恵一 (早稲田大学商学学術院教授)

第Ⅱ報告 16:45~17:35

テーマ 「日本コーポレート・ガバナンスの新たな方向と課題」

報告者：平田 光弘 (一橋大学・星城大学名誉教授)

司会者：安田 聡子 (関西学院大学准教授)

特別記念講演 17:40~18:30

「危機的段階と新しい経営行動」

講演者：三戸 公 (立教大学・中京大学名誉教授)

司会：菊池 敏夫 (中央学院大学大学院特任教授)

※懇親会・レセプション 18:40~20:40 (リーガロイヤルホテル3階)

8月5日(木) 第20回経営行動研究学会全国大会

自由論題報告 8:30 受付開始 (11号館 9階)

自由論題 IV 9:00~9:45 (報告30分, コメント・質疑15分)

11号館	A会場 (9階 907教室)	B会場 (9階 908教室)	C会場 (9階 913教室)
テーマ	「日本の新産業としての都市再生ビジネス—公的機関が果たしてきた役割と今後の取組み—」	「企業の特許出願と業績連動—テレビの情報端末化を事例に—」	「戦略的地域貢献活動に見られる経営行動について—業種別視点からの一分析—」
報告者	森 忠彦(日本大学大学院)	米岡英治(立教大学大学院)	角 和宏(広島大学大学院)
コメント	山本 卓((財)日本不動産研究所)	櫻井敬三(金沢星稜大学)	中村公一(駒澤大学)
司会者	藤田 誠(早稲田大学)	亀谷 祥治(日本大学)	山田仁志 (淑徳大学)

自由論題 V 9:50~10:35 (報告30分, コメント・質疑15分)

テーマ	「スポーツ・マーケティング論におけるプロダクトの特質とステイクホルダー」	「バランスト・スコアカードとAHP法を組み合わせた評価モデルの研究—公園管理における指定管理候補者選定を事例として—」	「消費の外部性におけるヒューマン効果—地域産品における分析—」
報告者	日野隆生(大阪国際大学)	八島雄士(九州共立大学)	板倉宏昭(香川大学)
コメント	佐々木 茂(高崎経済大学)	樋口和彦(白鷗大学)	堀越芳昭(山梨学院大学)
司会者	三浦康彦(アール・エル・エル経営)	石崎忠司(中央大学)	飯島寛一(中央学院大学)

自由論題 VI 10:40~11:25

テーマ	「経営自主体」論に基づくCSR—マネジメント機能主義の観点から—」	「アメリカ企業におけるストック・オプション付与操作をめぐる実証研究の系譜」	「オープンイノベーションの二つの側面—持続可能な技術の研究開発の視点からの考察」
報告者	小野 琢(愛知産業大学)	細田 哲(獨協大学)	永島暢太郎(東海大学)
コメント	堀田友三郎(東海学園大学)	茅根 聡(東洋大学)	永田晃也(九州大学)
司会者	小川達也(東京富士大学)	村上 睦(大阪学院大学)	石山伍夫(日本大学)

ランチタイム 11:25~12:30 (11号館9階 会員控室)

統一論題報告 (11号館 9階 913教室)

第Ⅲ報告 12:30~13:20 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ: 「パラダイムシフトと支配力学の変容—破壊的技術変化に関する一考察—」

報告者: 浅井 紀子(中京大学教授)

司会者: 竹野 忠弘(名古屋工業大学准教授)

第Ⅳ報告 13:25~14:15

テーマ: 「日本の人材管理—課題と方向」

報告者: 石井 脩二(桜美林大学大学院客員教授)

司会者: 川端 大二(川端人材開発研究所代表)

第Ⅴ報告 14:20~15:10

テーマ: 「新たな経営行動—M・P・フォレットを通して—」

報告者: 齋藤 貞之(北九州市立大学教授)

司会者: 勝部 伸夫(熊本学園大学教授)

閉 会 式 : 15:10~15:20

※参加要領, 参加費, 申込方法については別途郵送の大会開催案内状をご確認ください。

※第20回全国大会および第10回日本・モンゴル国際シンポジウム 大会実行委員長 厚東 偉介
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学 Tel./fax. 03-5206-2006 (直)

研 究 部 会 報 告

○第75回研究部会・2010年4月10日(土)於 早稲田大学9号館

●テーマ:「JSPC(靖遠発電所)の経営革新—日本型管理手法の導入を中心に—」報告者:
魏 爽 氏(桜美林大学大学院博士後期) 司会・コメンター: 董 光哲 氏(江戸川大学)

日本型経営管理手法は1980年代から海外進出した日系企業だけではなく, 欧米の先進国においても「経営合理化」の手段として注目され, 各国の状況によって「適用・適応」されはじめた。現在までの先行研究成果をまとめると, ①日本型経営管理方式が文化や社会制度が異なる社会において「適用・適応」されることが可能であること, ②外国企業においても, 日本的労使関係を日本文化と切り離して自国企業の経営合理化に利用できること, などが明らかになっている。

魏氏は中国の西北部にある発電企業 JSPC(靖遠第二発電所)を事例研究として取り上げ, 数回の現地調査を通じて, 日本型経営管理手法の導入を実地調査した。調査の結果, 日本企業の5SとTPM改善活動がJSPCにおいてどのように「適用・適応」されているのか, いかなる効果を得ているのかを分析した。米国との合弁会社でJSPCが日本型経営管理手法の導入を図ることは興味深いことで, 研究上の価値があると考えられる。しかし, 以下の問題点も指摘できる。①日本型経営管理手法を導入するためには, 日本型経営管理手法を学習・理解し, それから導入が可能であると考えられる。JSPCはどのようにこの過程をクリアしているかは明らかになっている。②日本型経営管理手法は多くの要素で構成されている。5SとTPM改善活動だけで, 日本型管理手法といえるのか, などさらなる研究が求められる。魏氏の博士論文を期待したい。(董 光哲記)

●テーマ「21世紀における市場経済と企業の役割, 社会的責任—100年に一度の大不況といわれる現在, その歴史的意味を考える—」井出 亜夫 氏(日本大学大学院グローバルビジネス研究科教授), 司会・コメンター: 吹田 尚一 氏(社)日本経済復興協会理事)

CSR論を図式的に言えば, フェーズ1は産業資本主義の時代—シェアホルダー・キャピタリズムの時代, フェーズ2は寡占時代—ステークホルダー・キャピタリズムの時代, というように展開してきた。その内容は報告に詳しくある通りだが, それは今回のような金融危機については有効打になりえない。体制的危機さえ呼びこむような銀行行動にその社

会的責任をどのように追及できるかは解答がいまだない（せいぜい議会証言の場で追及される程度）。また個々の金融機関がたとえ合理的に行動したとしても市場の破綻をきたす事態に対しては（リスクとは区別される「不確実性」の発生）、競争の枠組みとルールを第三者（政府）が介入して新しく設定せざるを得ない。それは個々の企業が提案してくると期待することもできないからだ。こうして「システムック・リスク」の再発を防止するためには、市場にすべてを任せることはできないことを知り、市場参加者は各種の規制を受け入れることによって、新しい時代におけるCSRは完成するのである。（吹田尚一記）

●テーマ「ハイブリッド・コーポレート・ガバナンスへの道—金融危機で機能出来なかったアメリカのコーポレート・ガバナンスの再構築—」報告者：佐藤 剛 氏（元日立化成工業（株）副社長，全米取締役協会会員），司会・コメンター：宗岡 広太郎 氏（（株）日立製作所顧問）

佐藤氏は1965年に日立化成に入社，主として海外営業を担当され，2003年取締役副社長を退任，同年同社が「委員会会社」に移行した際に取締役に再任されて監査委員会議長として2006年6月まで上場会社のコーポレート・ガバナンスの実務に携わってこられた。

2006年の現役退任後，南カリフォルニア大学の大学院に進学，1年でMBAを取得，更に1.5年に亘り同大学法科大学院にてコーポレート・ガバナンスに関する法律面での研究に努められて帰国，当学会会員になったばかりの気鋭の研究者である。今回の発表では，在米中に特別に参加を許された全米取締役協会での経験，即ち米国の社外取締役たちが金融危機を惹起したことに對して真摯に反省しつつコーポレート・ガバナンスの闊達な改革活動を行ってきた経緯とその内容を紹介しつつ，その活動を通じて得た報告者のコーポレート・ガバナンスについての考え方，演題のハイブリッド・コーポレート・ガバナンスの主張を報告された。本発表後席上から多くの質問・意見が出されたが，報告者がそれに応じて研究成果を踏まえて，自説を補強説明されたことも印象的だった。報告者の主張する考え方が多くの研究者・実務者の議論を呼び学会と企業が相携えて，わが国のコーポレート・ガバナンスが更に有効且つ特色あるものに改革されることを期待したい。（宗岡 広太郎 記）

●今後の部会開催予定

◆経営行動研究学会第26回中部部会開催案内

下記の通り，中部部会を開催しますので，万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。なお，今回は経営哲学学会中部部会との合同開催となります。

日 時：平成22年6月12日（土）13：30～ 参加費500円

場 所：東海学園大学大学院栄サテライトキャンパス

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-21 久屋南KTビル9F

TEL 052-251-6321（代）（地下鉄名城線『矢場町』駅4番出口，南へ200m）

1. 研究報告（報告35分・コメント10分・質疑15分）

- (1) 「破壊的技術変化に関する一考察—パラダイムシフトと支配力学の変容—(仮)」
 報告者：中京大学 浅井 紀子 氏
 司会・コメンテーター：名古屋工業大学 竹野 忠弘 氏
- (2) 「ソーシャルビジネスの理念と普及についての考察」
 報告者：中京大学企業研究所研究員 速水 智子 氏
 司会・コメンテーター：東海学園大学 櫻井 克彦 氏
- (3) 「近年のコーポレート・ガバナンス制度変化と企業側の反応 (仮)」
 報告者：東海学園大学 市古 勲 氏，愛知学院大学 津田 秀和氏
 司会・コメンテーター：中京大学 中條 秀治 氏

2. 議 事

- (1) 次回開催校の件 (2) その他

終了後、懇親会を行ないますので、こちらも是非ご参加下さい。(懇親会費 4,500 円)
 次回は、12 月に中京大学で開催の予定です。

中部部会部会長 櫻井 克彦 (東海学園大学)

※ 中部部会事務局では報告希望を随時、受け付けています。

連絡先は〒470-0207 愛知県みよし市福谷西ノ洞 21-233 東海学園大学経営学部

市古 勲 (TEL:0561-36-5555, FAX:0561-36-6757, E-mail:ichiko@tokaigakuen-u.ac.jp) です。

◆ 経営行動研究学会第 76 回研究部会開催案内

下記の通り、第 76 回研究部会を開催しますので、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

日 時：2010 年 7 月 10 日(土) 午後 1 時 30 分より 時間厳守

会 場：明治大学 研究棟 2 階 第 9 会議室 (東京都千代田区神田駿河台 1-1)

参加費：5 0 0 円

①テーマ：「製品アーキテクチャの変化と知財に関わる経営行動についての考察」 (仮題)

報 告 者：山本 俊文 氏(立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士課程後期課程)

司会・コメンテーター：櫻井 敬三 氏 (金沢星稜大学教授)

②テーマ：「ドイツにおける原価理論—シュマーレンバッハとメレロヴィッツの所説を中心に—」

報 告 者：大澤 一雄 氏 (中央学院大学准教授)

司会・コメンテーター：湯田 雅夫 氏 (獨協大学教授)

③テーマ：「革新的中小企業の経営の論理」

報 告 者：土屋 勉男 氏 (日本ソクタン・アカデミー副理事長・明治大学政治経済学研究科兼任講師)

司会・コメンテーター：安田 聡子 氏 (関西学院大学准教授)

※部会終了後、懇親会を予定いたしておりますので、是非ご参加ください。

参加費：3,500 円

会場：カフェパンセ：明治大学駿河台校舎アカデミーコン 1 階 TEL/FAX 03-3296-4622

●第77回の研究部会は、10月に日本大学経済学部にて開催予定。

●第27回中部部会は12月に中京大学にて開催予定。

理事会報告

2010年4月10日(土)11時30分より開催。早稲田大学9号館5階第2会議室にて。議題①第20回全国大会プログラムについて、大会実行委員長厚東偉介氏より、大会報告者リスト(案)をもとにプログラム案ならびにスケジュールについての説明が行われた。②第10回日本・モンゴル国際シンポジウムについては、日本側・モンゴル側の報告者の確定ならびに報告テーマについて説明がなされた。③個人会員12名(別記)の入会および7名の退会が承認された。④その他において、岩井清治総務委員長より日本経済学会連合60周年記念講演会(10月12日、早稲田大学大隈記念講堂)についての説明があり、会員の参加を求めた。研究プロジェクト(代表者 佐久間信夫氏)「コーポレート・ガバナンスにおける国際比較のための基礎的研究」について上野哲郎研究委員会副委員長より説明があり承認された。

◆新刊書(学会会員著)紹介◆

- ・『異文化経営の世界—その理論と実践』馬越恵美子・桑名義晴(編著)・異文化経営学会(著)、白桃書房、2010年3月発行、314頁、定価3,465円(税込)
- ・『文系でもわかるビジネス統計入門』内田 学、兼子良久、斉藤嘉一(著)、東洋経済新報社、2010年3月11日発行、217頁、定価1,800円(税別)
- ・『失われた10年—バブル崩壊からの脱却と発展—』石崎忠司(監修)、中央大学出版部、2010年3月30日発行、613頁、定価6,200円(税別)
- ・『日中対照 基本経営用語辞典』董 光哲(著)、学文社、2010年4月10日発行、228頁、定価2,500円(税別)
- ・『アジアフロンティア地域の制度と国際経営—CLMVT(カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム・タイ)と中国の制度と経営環境—』丹野 勲(著)、文眞堂、2010年4月15日発行、327頁、定価3,500円(税別)
- ・『コーポレート・ガバナンスと企業倫理の国際比較』佐久間信夫・水尾順一(編著)、金山権(第14章)、ミネルヴァ書房、2010年4月20日発行、299頁、定価3,500円(税別)

委員会だより

研究委員会 部会報告の募集について……本人申込み・推薦いずれかにより、それぞれ所定の用紙(申込み用紙は学会事務局にあります)に記入のうえ、学会事務局に開催予定日の3ヶ月前までに送付する。応募多数の場合は、研究委員会の審議を経て決定します。なお、部会開催についてご協力を頂けます大学がありましたら、事務局までご連絡申込みくださいますようお願いいたします。

新入個人会員紹介

氏 名	所属機関・職 名	専 門
明山 健師	神奈川大学大学院博士後期課程	経営学、コーポレート・ガバナンス
内田 学	(株)バルーク・ビジネス・コンサルティング	マーケティング

兼子 良久	学習院大学	経営学
魏 爽	桜美林大学大学院博士後期課程	経営学
佐藤 剛	全米取締役協会会員	コーポレート・ガバナンス
清水 恵一	広島大学大学院博士後期課程	経営組織論,経営戦略論
鈴木 幹一	立教大学大学院博士後期課程	コーポレート・ガバナンス
宣 京哲	神奈川大学大学院博士後期課程	経営学
早矢仕幸利	MA&AD基礎研究所(株)	保険・金融およびリスクマネジメント
檜山 宗志	神奈川大学大学院博士後期課程	経営学,コーポレート・ガバナンス
山本 俊文	立教大学大学院博士後期過程	経営学
劉 曉穎	立教大学大学院博士後期課程	企業家精神の育成、国際技術移転

会報委員会よりのお願ひ：会員諸氏により新たに学術著書が出版された時は、学会に一部ご惠贈下さいますようお願いいたします。会報にてご紹介させていただきます。

会員消息

● 叙 勲

このたび春の叙勲に本学会の小川英次氏、森本三男氏が受章されました。叙勲の榮に浴されたお二人に対し、会員の皆様とともにお祝い申し上げ榮譽をたたえたいと思います。

▷ 小川英次氏（名古屋大学名誉教授）瑞宝重光章

▷ 森本三男氏（横浜市立大学名誉教授）瑞宝中綬章

● 受 賞

このたび本学会会員大木裕子氏（京都産業大学）には、その著書『クレモナのヴァイオリン工房—北イタリアの産業クラスターにおける技術継承とイノベーション』（文眞堂刊）が財団法人商工総合研究所平成21年度中小企業研究奨励賞を受賞されました。ここにご披露し、会員一同とともに大木氏の受賞にお祝いを申し上げる次第であります。

● 学位授与

◎本学会会員の徐雄彬氏（東北師範大学）は、学位論文「中国における日系製造業企業の人材現地化に関する研究—経営管理者の現地化を中心として—」により桜美林大学より2009年9月5日に博士（学術）が授与されました。

◎本学会会員の田 園氏（桜美林大学大学院博士後期課程）は、学位論文「在中日系企業の人材育成に関する研究」により桜美林大学より2010年3月15日に博士（学術）が授与されました。

◎本学会会員の佐々木一彰氏（日本大学）は、学位論文「ゲーム企業の成長と社会的正当性—カジノ企業を中心として—」により大阪商業大学より2010年3月25日に博士（地域政策学）が授与されました。

ここにご披露し、会員の皆様とともにお祝い申し上げます。

【住所・所属等変更の連絡方法について】

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書（電子メール可）にて事務局宛にご連絡ください。

発行 経営行動研究学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-4-8

東京中央ビル 7F707号経営行動研究所内

2010年5月31日発行

TEL. 03-3263-2586 FAX. 03-3263-4466

<http://www.soc.nii.ac.jp/jam/index.html/> e-mail:jarbab@alpha.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 櫻 栄 TEL. 03-3288-5571